



総会で挨拶する山下武右会長

児玉源太郎顕彰会（山下武右会長）は設立して9年。10年目を迎えて令和7年度総会を6月7日、周南市文化会館3階展示室で開催しました。児玉神社社務所新築に伴い、周南文化協会内の顕彰会事務局を移転。さらに基金と組織の拡充をめざした10周年記念事業に取り組みます。

総会には40人が出席、山下会長が「皆様のご支援、ご協力のおかげで10年目を迎えました。児玉源太郎は軍人、政治家として活躍、台湾総督では台湾の近代化を進め、日露戦争では厳しい戦いを勝利に導き、郷里には私設図書館ともいえる児玉文庫を作るなど大きな業績を残しました。今後も顕彰活動を通して街づくりに貢献していきたい」と挨拶しました。  
議案は令和6年度事業報告と収支決算、令和7年度事業計画と収支予算、児玉神社社務所新築と児玉源太郎顕彰会事務局移転支援の3議案で原案通り承認されました。事業報告は、会報「藤園」9号とニュースレター「本丁通信」15号、16号の発行。7月24日の「藤園忌」には児玉神社（黒神直大宮司）で

**児玉源太郎顕彰会総会**  
**児玉神社社務所へ事務局移転**

編集・発行  
児玉源太郎顕彰会  
〒745-0874  
山口県周南市公園区5854-41  
周南文化協会 内  
TEL. 0834-22-8190

印刷 (有) 精文社  
山口県周南市若宮町1-55  
TEL. 0834-21-1611



「大将児玉源太郎」などを披露する「広佳・秋月会」のメンバー

命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養。「藤園忌」行事として俳句を募集、茶会を開催しました。会員は寄付金17人、役員・賛助会員91件・人、個人会員267人。総数で375件・人。前年より27件・人増えました。首都圏の保険会社OBの一挙加入が貢献しました。  
事業計画では、「藤園」10号と「本丁通信」17号、18号の発行、7月6日に「藤園忌」の茶会、24日に命日祭と墓前供養、6月から7月にかけて俳句募集。奥州市の後藤新平顕彰会、札幌市の一般社団法人新渡戸遠友リビングラボ、乃木希典を顕彰する東京の乃木中央会との交流も継続します。児玉源太



記念講演をされる船場大資さん

郎顕彰会の拠点作りを具体化、児玉神社社務所建て替えに伴い顕彰会事務局を移転します。  
社務所新築と顕彰会事務局移転の支援については趣意書を作成、一口1万円以上のご芳志をお願いするものです。新築と移転への支援とともに、次世代への継承のために基金と組織の拡充を図ります。  
総会のあと、民謡、三味線の愛好会「広佳・秋月会」（安藤千璃子代表）の7人が三味線の演奏に合わせて「あ、回天」「周南音頭」「大将児玉源太郎」を歌い、披露しました。記念講演では山口学芸大学准教授の船場大資さんが『英国のスポーツ規範』と『明治武士道』―日本国民の近代化を中心に―と題して、スポーツ規範と武士道との関係を新しい視点でお話しされました。

令和6年度収支決算と令和7年度収支予算は次頁に掲載していますのでご覧ください。

### 令和7年度 収支予算書

#### 【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
繰越金	24,922	728,449	令和6年度より
会費	2,800,000	2,529,000	個人会費 賛助会費 役員会費
寄付金	1,500,000	449,274	寄付金
雑収入	150,000	131,338	会報「藤園」販売 「藤園忌」茶会チケット DVD販売 利息等
合計	4,474,922	3,838,061	

#### 【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	前年度 決算額	備考
会議費	50,000	25,050	会場費等
通信費	300,000	208,631	切手・葉書 郵送代
消耗品費	150,000	158,118	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,200,000	1,173,900	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	100,000	0	
書籍購入費	30,000	0	
渉外費	100,000	52,160	慶弔費
宣伝広告費	30,000	18,700	ホームページ
事業費	600,000	618,781	総会&講演会 「藤園忌」茶会&俳句 命日祭、墓前供養
負担金	26,000	25,100	諸会費
事務局費	1,600,000	1,496,676	賃金・賃料・光熱水費
手数料	50,000	36,023	郵便振替手数料
予備費	238,922	0	
合計	4,474,922	3,813,139	

### 令和6年度 収支決算書

#### 【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
繰越金	728,449	728,449	令和5年度より
会費	2,800,000	2,529,000	個人会費 534,000 賛助会費 675,000 役員会費 1,320,000
寄付金	500,000	449,274	寄付金 449,274
雑収入	200,000	131,338	会報「藤園」・茶券 131,000 利息等 338
合計	4,228,449	3,838,061	

#### 【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	備考
会議費	50,000	25,050	会場費等
通信費	300,000	208,631	切手・葉書 郵送代
消耗品費	150,000	158,118	印刷用紙・インク
印刷製本費	1,200,000	1,173,900	「藤園」「本丁通信」、封筒
備品購入費	20,000	0	
書籍購入費	30,000	0	
渉外費	100,000	52,160	慶弔費
宣伝広告費	30,000	18,700	ホームページ
事業費	600,000	618,781	「藤園忌」命日祭・供養 33,160 「藤園忌」茶会 216,751 「藤園忌」俳句 325,700 総会&講演会等 43,170
負担金	25,000	25,100	諸会費
事務局費	1,600,000	1,496,676	賃金・賃料・光熱水費
手数料	50,000	36,023	郵便振替手数料
予備費	73,449	0	
合計	4,228,449	3,813,139	

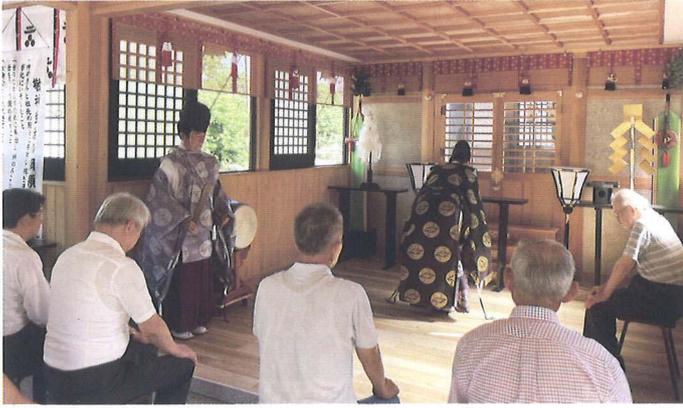
(収入) 3,838,061 - (支出) 3,813,139 = (残高) 24,922

### 第 9 回 「藤園忌」

## 児玉神社で命日祭 興元寺で墓前供養

児玉源太郎顕彰会は「藤園忌」の 7 月 24 日、児玉神社（黒神直大宮司）で命日祭、菩提寺の興元寺（金子清学住職）で墓前供養を営みました。

「藤園忌」は児玉の命日にちなみ、顕彰会が呼びかけて始めました。命日祭には 10 人が参加、黒神宮司の祝詞奏上に続いて、山下武右会長が玉串を捧げて遺徳を偲びまし



児玉神社での命日祭

だ。

神事のあと、黒神宮司が「戦後 80 年の今年、日本の国について国民が考える年になればいい。本日はありがとうございます」とお礼の挨拶。境内では社務所の新築工事が進み、この日午後、関係者で上棟祭が催されました。

命日祭のあと、興元寺の隠居山墓地に移動。美しく掃き清められ



児玉源太郎遺髪塔での供養

た児玉家墓所と児玉源太郎遺髪塔に花を手向けて焼香しました。興元寺は徳山藩士の菩提寺で、高台

### 「藤園忌」茶会

## 涼やかな演出に感銘

にある墓所からは市街地や徳山湾を望めます。

児玉源太郎の命日にちなむ「藤園忌」茶会を 7 月 6 日に周南市文化会館 3 階展示室で催しました。

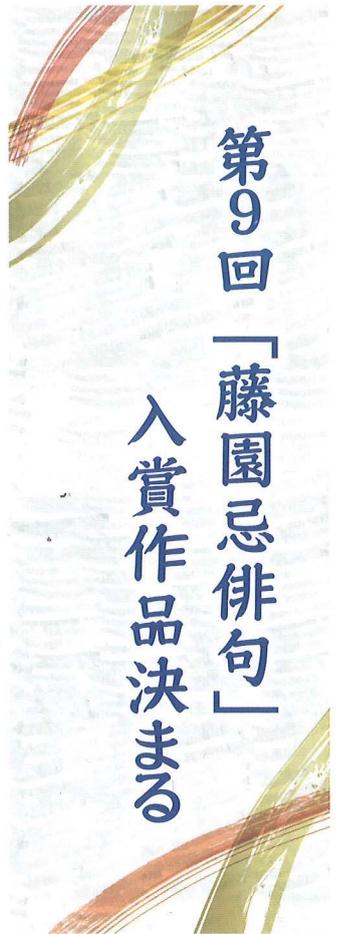
箏や尺八の演奏を聴きながらお茶に親しむ茶会は児玉源太郎顕彰会の主催。顕彰会の事務局を置く周南文化協会の茶道連盟（河村幸代会長）と邦楽連盟（澄田悦子会長）の協力で、今年も猛暑の中、210 人が参加しました。

今回は茶道連盟の表千家周栄会が担当。気軽にお茶に親しんでもらおうとテーブルとイスの立礼式で、床の間の軸は即中斎筆「松風塵外心」。花はからまつ草、たいまつ草、ねじ花が添えられました。邦楽連盟の澄田悦子会長ら 3 人が「六段の調」「四季の日本古謡」などの箏曲を奏でて会場の雰囲気盛り上げました。軸や花、茶道具のお話を聴きながら主菓子と一服のお茶を味わいました。茶碗は 12 代坂倉新兵衛作の萩平「さざ波」

など。主菓子は「笹舟」。お茶をたしなむ人をはじめ、顕彰会の山下武右会長ら役員、華道連盟会長の藤井苑幸さん、陶芸連盟会長の中村達雄さんらも夏のひととき、涼やかな演出を楽しんでおられました。



箏曲の音とともに親しむ藤園忌茶会



# 第9回「藤園忌俳句」

## 入賞作品決まる

児玉源太郎顕彰会は、7月24日の「藤園忌」にちなんだ俳句を6月から7月にかけて募集しました。俳句は、児玉源太郎に関することと夏季雑詠。1人3句まで。174人から483句が寄せられました。前回より72人、194句増えました。第1回の360句を超えて過去最多の応募です。無記名清記のうえ、選者の坪内稔典さん（俳人・柿衛文庫理事長）と対馬康子さん（現代俳句協会副会長・産経俳壇選者）、久行保徳さん（俳誌「草炎」主宰）の三人が選考して特選3点、入選10点、佳作20点の計33点を決定しました。

「藤園」は児玉源太郎が晩年使っていた雅号。顕彰会を設立した翌年の平成29年から俳句や茶会などの「藤園忌」行事を始めました。源太郎は器量の大きな政治家、軍人として日本の近代化を推進した実力者で、ふるさとは私財を投じて明治36年私設図書館「児玉文庫」を作りました。文庫は戦災で

焼失する昭和20年まで42年間にわたり、教育文化の向上に大きな役割を果たしました。現在の周南市立中央図書館の前身にあたり、平成31年3月の中央図書館リニューアルオープンの際、「児玉文庫メモリアル」の愛称が付けられました。入賞作品は次の通りです。

### 特選

- 藤園忌戦争を知る子どもたち 東京都 自由 一花
- 空蟬のかたち崩さず藤園忌 下松市 中田 裕子
- 凜とする私の中の藤園忌 三田市 新元みつよ

### 入選

- 一生の夢を見終へて昼寝覚 唐津市 古賀由美子
- 青葉闇溺れてみたま椅子がある 越谷市 田中 朋子
- 日傘みな海を見てゐる藤園忌 周南市 安達 輝美

### 佳作

- ゼリー揺れ今は抱きしめたくはない 入間市 大野 美波
- 遠蟬やこだま文庫の子らの声 柳井市 片山 淳子
- 周南に碑文を濡らし驟雨過ぐ 川崎市 下村 修
- 大暑大暑児玉大将驚いた 高槻市 松代 享子
- この町を照らす光よ藤園忌 大島郡 村田 光子
- 夏木立児玉像へとたどりつく 柳井市 山本 理久
- 宇宙から帰還のありし藤園忌 東京都 笹木 弘
- 反抗期の夫もてあます藤園忌 東京都 岡崎 久子
- 藤園忌山より海が好きになる 光市 上野 昭子
- 藤園忌七月の雲立ちのぼる 周南市 阿部 友子
- 八月のかたまり沈む河馬の池 周南市 木村たけま
- たいようのおちてきそうだ あついなつ

- 藤園忌地図を片手に夏の旅 周南市 高村淳之介
- 夏草を分けて進むや藤園忌 奈良市 浦城 亮祐
- 藤園忌訓練生の登檣礼 名古屋市 柘植 雅一
- 宇部市 河村千代子

- 炎昼の船倉錨が燃えている 光市 松原 君代
- 藤園忌絵本の象が立ち上がり 豊中市 戸川富士子
- 蟬涼し児玉神社の砂利ふめば 周南市 木村しづを
- ひねもすを国語便覧藤園忌 大阪市 花房 康子
- 藤園忌下校は文庫とさまつてた 周南市 伊藤惠美子
- 子等駆ける児玉公園風薫る 周南市 岡田 郁子
- ゲートル巻く父の仕草や藤園忌 防府市 尾辻のぶほ
- 水割りに夜景滲ませ藤園忌 下関市 平川扶久美
- 万緑や転びし幼すくと立つ 周南市 河本 宏子
- 公園に子の声戻り夏休み 周南市 谷村 道子
- 梅雨明けのタイワンゴヨウ 折りあり
- 祭神のおはすふるさと青山河 光市 兼崎 人士
- 周南市 南谷 昌孝



藤園忌俳句の選者3人  
右から坪内稔典さん、対馬康子さん、久行保徳さん

児玉源太郎顕彰会（山下武右衛門長）は第9回藤園忌俳句の表彰式と記念講演を9月13日（土）午後2時から周南市文化会館3階展示室で開催しました。俳人で選者の坪内稔典さん（柿衛文庫理事長）と対馬康子さん（現代俳句協会副会長）、久行保徳さん（「草炎」主宰）の3人全員がご臨席の下、受賞者33人のうち21人と顕彰会会員ら計70人が出席しました。

表彰式では、山下会長が児玉源太郎の功績と源太郎晩年の一句

「長すぎて僕の体に秋の風」を披露して「藤園忌俳句が年々広がりを見せて質の高さを実感している。今回は県内外から最多の応募があり、嬉しく思います」と挨拶しました。受賞者ひとり一人の句を披講しながら特選の自由一花さんら3人に賞状と賞金、入選の田中朋子さんら5人に賞状と記念品、佳作の岡崎久子さんら13人に賞状と記念品をお渡ししました。欠席者には後日郵送しました。

表彰のあと、選者3人から特選を中心に印象に残った俳句の講評がありました。坪内さんはとくに昨年の特選に続いて今年も佳作に入った高村淳之介君（小学1年）の感性を讃えました。

**対馬康子さんの記念講演**

**「心ひかれる俳句」を興味深く**

表彰式に続いて、対馬康子さんの記念講演に移りました。対馬さんは「麦」会長、産経俳壇選者でもあります。演題は「心ひかれる

俳句」。俳句は十七音と短い。五・七・五と定型化された俳句には複雑な魅力があると前置きして話を進めました。

芭蕉、蕪村、一茶から昭和を代表する俳人らに触れて橋本多佳子の「乳母車夏の怒涛によこむき」に、「富澤赤黄男「蝶墜ちて大音響の結氷期」を紹介しながら俳句は「心をよむ」ことが大切。事実を並べるのではなく、表現の工夫が必要。選者の句では「ねんごろに宙の暗部へ大根干す」（久行保徳）、「鬼百合がしんしんとゆく明日の空」（坪内稔典）に心象風景を見て取りました。



講演される対馬康子さん

対馬さんの俳句に影響を与えた師とも言える山口青邨の「初富士のかなしきまでに遠きかな」や中島斌雄の「雲秋意琴を売らんと横抱きに」、有馬朗人の「光堂より一筋の雪解水」。現代俳句協会顧問で2年前まで藤園忌俳句選者の宇多喜代子の「八月の赤子はいまも宙を蹴る」。最後に自身の「淡



藤園忌俳句受賞者の皆さん

雪や陸が近づくように夜」を例に出して心象イメージをしっかりとらせるためには矛盾と誇張も一つの表現方法であると強調しました。山口県出身の詩人の言葉、リズムの美しさも心に沁みると。まど・みちおの「ぞうさん」、中原中也の「汚れつちまつた悲しみに：」、金子みすゞの「わたしと小鳥とすずと」の十七音、七・五、七・七・五の繰り返し印象強く響きます。「俳句は作者と読者で成り立っています。何年後、何十年後も読者がいることは心強いです。読者を信じて作ってください」と話を結ばれました。

# 児玉源太郎顕彰会 設立10周年記念事業は着々と



12月中旬竣工予定の社務所

児玉神社（黒神直大宮司）の社務所新築工事と児玉源太郎顕彰会（山下武右会長）事務局の社務所移転をはじめ、基金と組織の拡充をめざした顕彰会設立10周年記念事業は着々と進んでいます。

令和4年の児玉神社遷座百年の際には「児玉神社遷座百年奉賛会」を前年に組織して2年がかりで社殿の修復改良、境内石垣と植栽の整備を中心とした記念事業に取り

組み、社殿と境内が一新されて参拝客も増えていきます。梅や藤など四季折々の花が咲いて市民の憩いの場にもなりました。

このたびの社務所建て替えは、築後50年を経過した老朽化に伴うもので、木造平屋建てから木造2階建てに拡充されます。これを機に周南文化協会に置いていた児玉源太郎顕彰会事務局を社務所内に移転、新たに御守や御朱印などの



参道に面して置かれた御守などの授与所

授与所を設けて参拝者への対応もします。図書も充実させて少人数の会議もできます。将来にわたって継続できる顕彰会の体制作りが喫緊の課題で、遷座百年の折から神社と相談して検討を重ねてきました。社務所は4月に解体、5月7日に地鎮祭、7月24日に上棟祭を行い、12月中旬に竣工予定。移転は年明けを考えています。

顕彰会では、6月から記念事業

第68回山口県神社関係者大会  
400人が集い、盛大に開催

山口県内の神社関係者が集う「第68回山口県神社関係者大会」が9月29日、山口市大手町の山口県教育会館で開催されました。

責任役員、神社総代、氏子崇敬者ら関係者400人が出席。はじめに山口県神社雅楽会による神楽舞「みたまなごめの舞い」が慰霊の舞として上演。続いて式典で山口県神社庁の黒神直大庁長が式辞、長年の功労者が表彰されました。来賓として神社庁や神宮（伊勢神宮）役員らも臨席、祝辞を述べられました。

このあと、記念講演で麗澤大学特任教授の江崎道朗さんが「台湾・

へのご支援として一口1万円以上のご芳志について会員をはじめ、地元企業、事業所へ協力を呼びかけています。おかげさまで多数のご支援をいただき、心から感謝いたします。引き続き来年3月未までご芳志を承ります。

11月25日までのご芳名は別紙のとおりです。この「本丁通信」17号に同封させていただきます。ありがとうございます。

尖閣危機と日本の国家戦略」と題して説得力のあるお話がありました。



神楽舞「みたまなごめの舞い」



### 児玉武雄氏逝去 遺族から児玉家家系図寄贈

児玉源太郎の三男友雄（陸軍中将）の孫にあたる児玉武雄さん（武蔵野市在住）が8月5日、逝去されました。享年78。ご冥福を心からお祈りします。

武雄さんは大学卒業後、住友商事で商社マンとして活躍。定年退職後、児玉家の資料を克明に調べ、源太郎と友雄を中心とした『物語 児玉家の歴史』を7巻の小冊子にまとめました。令和5年7月24日の「藤園忌」命日祭で来訪の折、児玉源太郎顕彰会と周南市美術博物館に寄贈されました。

今年6月1日に発行した会報『藤園』に「児玉源太郎の三男友雄の孫に生まれて」と題して友雄を通しての児玉家の物語を綴りました。身内ならではの貴重な寄稿

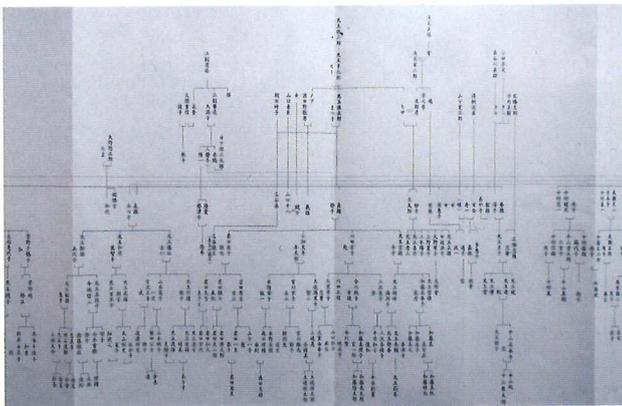


児玉家家系図

は話題を集めました。徳山再訪を楽しみにしておられた矢先、病に倒れて朝子夫人からの訃報に驚きました。訃報の中で「故人が作成した児玉家家系図をお役に立ててほしい」と。

8月末に「故人が『藤園』に書いた文章にもある通り、古い文書や手紙などを読み解くのに苦労があったようで、生きていた間に完成を見ることができたことは何よりでした。故人の生前のご厚誼に心から感謝申し上げます」との一文が添えられて児玉家家系図2部が届きました。1部は周南市美術博物館に寄贈しました。

家系図は長さ160センチにも及び、児玉孫三郎から半九郎、源



十三代目孫三郎から始まる児玉家の系譜

太郎と続き、源太郎の七男四女と子孫にまたがって縁者が記されています。寺内正毅や木戸孝允、渋沢栄一らともつながります。児玉家は孫三郎で十三代目。現在の埼玉県児玉郡神川町に移り住んで武蔵七党の一つ、児玉党を名乗り、厚木にいた毛利氏に服属していました。混乱の中、毛利氏は広島から山口へ。児玉党は西国でも毛利氏の有力御家人となって譜代家臣として活躍したと家系図は伝えま

### 日本画家・本間秀岳の遺族 肖像画「児玉源太郎大将」寄贈



児玉源太郎大将の肖像画

日本画家で肖像画を得意としていた本間秀岳さん（故人）の遺族、石田登志子さん（東京都江戸川区在住）から肖像画「児玉源太郎大将」一幅が、このほど児玉源太郎顕彰会に寄贈されました。

9月12日に石田登志子さんから児玉源太郎顕彰会に「父、本間秀岳が描いた児玉源太郎大将の肖像画があります。寄贈したいと思い



「本間秀岳画伯後援会のしおり」より

ますがいかがでしょう」と電話がありました。後日、画歴と肖像画（写真）など資料一式が届きました。画伯は大正3年、山形県天童市出身。日本画家、肖像画家として戦時中から戦後にかけて軍人や政財界の著名人を描いて名をはせました。

肖像画は軸装で本体の縦151センチ、横73センチ。実物の雰囲気をよく伝えていきます。東京・乃木坂の乃木神社に相談して児玉源太郎顕彰会を紹介されたそうです。有り難い寄贈で、児玉神社社務所一角に移転する予定の顕彰会事務所に掛けることにしています。石田登志子さんは本間秀岳さんの娘さんで裏千家淡交会の教授として茶道に精進しておられます。



### 児玉神社の梅の実が梅酒に

周南市児玉町の児玉神社境内の梅の実が梅酒になりました。児玉源太郎が生きていた時代から町中で商いをしていく茶道具店の田原清香園と酒蔵のはつともみぢ酒造が試作しました。

日本酒「原田」をベースにした梅酒だけに旨味が強いです。田原清香園は「藤園忌茶会」で会場作りのお世話をされていて、はつともみぢ酒造の原田康宏社長は児玉源太郎顕彰会理事として活躍されています。「いろんな取り組みで児玉神社や顕彰会を盛り上げてくれて嬉しい」と山下武右会長。



「児玉神社の梅で作った梅酒」

### 顕彰会有志が汗を流す

#### 「生誕の地」と「児玉家墓所」

児玉源太郎顕彰会では、7月24日の「命日祭」を前に毎年、岐山



有志で児玉源太郎生誕の地を清掃

通三丁目の「生誕の地」と東一ノ井手「児玉家墓所」を清掃しています。今年も6月22日に有志で生い茂った草取りに汗を流しました。また、9月13日の第9回「藤園忌俳句」表彰式と記念講演を控えた9月8日と10日も「生誕の地」をきれいにしました。

表彰式には東京から4人、関西から2人と県内外から受賞者21人が出席。選者3人も初めて揃って臨席、盛り上がりしました。「生誕の地」の一角には早速、特選3句が掲示されました。



### 徳山商工会議所会頭に

#### 岡田哲矢さん(徳機社長)

徳山商工会議所会頭に徳機株式会社代表取締役社長の岡田哲矢さんが11月1日就任しました。任期は2028年10月までの3年間。

前会頭を務めた株式会社はつともみぢ代表取締役社長の原田康宏さんの後任で、原田会頭の下、2022年11月から3年間副会頭として支えました。原田さん、岡田さんは児玉源太郎顕彰会理事として活躍中。顕彰会設立以来、副会長として重任を担われた岡田幹矢さんが昨年12月に逝去、今年2月27日の顕彰会役員会で長男の哲矢さんが理事に選任されました。まだ52歳の若さで将来が期待されます。

### 徳山医師会病院長に

#### 松本美志也さん

山口大学医学部・同大学大学院の教授を定年退職した松本美志也さんが4月1日、徳山医師会病院長に就任しました。光市出身。山大附属光中から光高校、山大医学

部へ。中学時代はバレーボール部で県体優勝、大学ではボート部で活躍したスポーツマン。県内の病院で勤務後、大学に戻り、米国に1年間留学。研究と診察を続けて2009年に麻酔・蘇生学講座の教授に就任しました。徳山医師会病院は、開業医が患者を入院させて自ら主治医として診療にあたる全国で唯一の完全オープンシステムの病院。地域医療を支援する大切な役割を担っています。

### 編集室より

児玉源太郎の没後110年の節目に顕彰会を設立して早や10年目。来年が没後120年にあたります。設立翌年から「藤園忌」行事の命日祭、墓前供養、俳句募集や茶会を始め、児玉神社遷座百年祭では奉賛会の支柱として社殿や境内の整備などに大きな役割を果たしました。源太郎の生涯を描いたDVD『児玉源太郎・未来を築く』は次世代への普及に貢献。ニュースレター『本丁通信』は17号、会報『藤園』は10号を重ねました。ご支援、ご協力に感謝するとともに、事務局移転による顕彰活動の継続をめざしてともに歩んでいきたいと思えます。